

輝け！シン尾花沢中

第99号

令和7年

10月6日

心ゆたかに たくましく 理想をうたう わが学園

挑戦！～自分を知り、一步を踏み出せた県中学校駅伝大会～



1区：渡辺心優さん



2区：阿部寛花さん



3区：高橋夏菜さん



4区：黒山亜咲さん



5区：渡辺叶愛さん

10月4日（土）、県総合運動公園（ND ソフトスタジアム）内周回コースで、県中学校駅伝競走大会が行われ、本校女子駅伝チームが北村山地区代表として出場しました。

5月1日（木）の北村山中学校長距離記録会で出場を決めてから、部活動はもちろん、部活動がない日も、グラウンドで自主練習にコツコツと励む姿を、私は見てきました。

しかし、直前のけがや体調不良により、チームとしてのコンディションは万全とは言えない状況であったと聞いていました。選手たちは、「最後までたすきをつなぐ」ことを再確認し、声を掛け合ってこの難局を乗り切ろうとしていました。

11時、スタート。1区（3km）を、渡辺心優さんが走ります。2区（2km）は阿部寛花さん。3区（2km）は高橋夏菜さん。4区（2km）は黒山亜咲さん。けがで出場できなかった菅野音桜さんが走り終わった仲間とともに必死に声援を送ります。そして、5区（3km）は、唯一の3年生、渡辺叶愛さんが2人を追い抜き、ゴールしました。目標であった「最後までたすきをつなぐ」ことができたのです。選手の表情は達成感で満ちあふれていました。

私たちは、どうしても自分（たち）の土俵で戦いがちです。安全だからです。しかし、人として成長するためには、自分（たち）の土俵の外で戦うことも必要です。すなわち、自分（たち）の力以上のライバルと戦うということです。「挑戦」ともいえるでしょう。圧倒的な力の差を感じ、自分（たち）の現在の力を「知る」のです。優勝した山形市立第十中学校をはじめ他学校の強さを実感でき、選手の皆さんにとっては、とてもいい経験であったと思います。

大切なのはこれからです。現状を知り、一步を踏み出すことが求められているのです。

寛花さんが、ゴール後に笑顔で「楽しかった～。来年も出場したい～」と言っていました。それに対し、2年生3人が「大丈夫。5人そろっているから、来れるよ」と答えていました。私は、1・2年生が次の一步を踏み出してくれることを確信しました。

女子駅伝チームの皆さん、お疲れ様でした。そして、感動をありがとうございました。

【文責：校長 工藤雅史】